

第 25 回 朝来市公共交通会議 会議録

○ 開催日時 令和 7 年 2 月 25 日（火） 午後 2 時から午後 3 時 30 分まで

○ 開催場所 朝来市役所本庁舎 3 階 庁議室

○ 出席者氏名

	出席者	欠席者
委員	天 野 修 二	田 内 淳
	黒 崎 崇 裕	山 本 良太郎
	清 瀬 真紀子 (代理：日下部 達也)	井 上 学
	森 口 洋 平 (代理：岡田 勝)	新屋敷 昭 一
	山 口 忠 司	
	小 田 正 儀	
	山 本 正 之	
	小 谷 豊 彦	
	高 品 浩	
	巻 野 めぐみ	
	木 原 健 太 (代理：檜岡 弘)	
	熊 谷 樹一郎	
	藤 野 隆 志	
	藤 本 修	
	浅 田 繁 市	
	伊 藤 宣 廣	
	西 垣 尚 子	
事務局 (都市整備部都市政策課)	部 長 小 谷 康 人	
	課 長 京 住 真 志	
	副課長 足 立 智 義	
	上席主査 大 林 厚 之	
	主 査 中 治 佑 介	

○ オブザーバー 兵庫県交通政策課 副課長 新 田 博 史

1 開 会

2 あいさつ

会 長： 昨日こちらかなり雪が降ったようで本日皆さんに参集いただけるかちょっと心配していたが、お集まりいただき感謝申し上げます。本日は報告事項が6件、協議事項3件ということで件数が多くございます。本日も慎重審議賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1) 地域公共交通施策に係る主な取組状況（前回会議以降）

事 務 局：【資料1に基づき説明】

(2) 朝来市デマンド型乗合交通（生野、朝来エリア）の運行状況

事 務 局：【資料2に基づき説明】

委 員： 朝来エリアと生野エリアで比較してみると利用者の実人数が半分ぐらいで、朝来の方が利用が少ない。そもそも住んでいる方の率がエリアによって偏っているということもあるのか。要因として考えられることはあるか。

事 務 局： 朝来エリアが生野エリアに比べて利用が少ない状態でスタートしている要因としては、生野エリアはデマンド型乗合交通の導入と同時にエリア内の路線バスが廃止されたが、朝来エリアについては、引き続き路線バスが走っており、デマンド型乗合交通導入後も路線バスを引き続き利用される方もいるためと考えている。

委 員： 自宅登録者数について、生野エリアでは徐々に増えて391人になったのか。それとも最初から一気に登録が多かったのか。

事 務 局： 自宅登録者数について、生野エリアでは昨年11月末時点で380人、本年1月末時点で391人の登録となっており、この2ヶ月間でも10名程度増えている。また、朝来エリアでは昨年11月末時点で147人であったのが本年1月末時点で171人となっており、20人以上増えている。いずれのエリアも徐々に増えていっている。

委 員： 利用者数について、やはり気候の関係が影響しているのではないかと思う。急に雪が降ったりして外出を控える方がかなりおられると思う。今後また暖かくなると利用者も多くなるのではないかと考える。

事 務 局： これまで増加傾向にあった利用者数が1月に若干下がったということで利用状況を分析したが、特にこれといった主な要因は特定できない状況。観光利用は実際に減っているものの減少幅の全てではない。また、目的別に見ると「買い物」や「通院」についても相対的に減少している。年始ということもあり1月の行動様態の特異性ということも考えられるが、2月前半の利用状況も1月同様に少ないことから、やはり雪や寒さによる外出控えが影響しているのではないかと考えている。

委 員： 通勤利用者について、生野エリアでは15.3%で月平均90人程度だが、朝来エリアではたった2人で0.1%の利用。例えば企業や事業所の数によるものか、何か要因はわかっているか。

事務局： 朝来エリアにおいては定常的に通勤利用されている方はいない。生野エリアにおいては定常的に通勤利用をされている方が2名程度いる。今回報告の数字については延利用人数であるため、通勤利用をされているのは2名程度だが、毎日カウントされることにより、延利用人数や割合としては上がっている。

(3) 朝来市デマンド型乗合交通（和田山・山東エリア）住民説明会の実施状況

事務局：【資料3に基づき説明】

補足説明。資料4 ページ下段の2月19日開催の説明会参加人数について、糸井地区は6人、和田山地区は0人。和田山及び山東地域全体で延652人が参加。

委員： 住民説明会について、市の広報やケーブルテレビでPRされていたが、地域の方に話しても知らなかったという方が多かった。区長さんに区内の放送で呼びかけてもらったが、当日参加してみると地元の私の区以外からは役員さんとかは来られていたが、今必要であろう方々はほとんど参加されてない状況だった。チラシや折り込みが入っていても、配り物を見ない方もおられ周知が十分されてないために説明会の参加者が少なかったのではないかと感じている。先ほど報告のあった朝来エリアの利用者数が少ないというのも、今はバスが走っているから私らには関係ない、今は車に乗っているから関係ないという思いをされている方がまだかなりあるのではないかと感じた。以前は老人会や婦人会等の集まりがあり、その中でPRということができたかもしれないが、そういう集まりもどんどん減ってきて地域で知らせていく機会が減っている。例えば健康福祉大学であるとか、区に説明に来てくれる出前講座等といったことの周知を行い、1人でも多くの方が利用するようになればと思う。

事務局： 住民説明会については、チラシの配布や各区長さんに地域への声かけ等ご協力をいただきながら、周知を図った。今回の説明会に限らず、デマンド型乗合交通についてどう周知をしていくのかということは大事だと考えている。今後もより効果的な情報発信や周知の方法について考えていく。

(4) 令和6年度第2回朝来市地域公共交通ワークショップの実施状況

事務局：【資料4に基づき説明】

委員： 今回、高校生の参加はあったか。

事務局： 今回のワークショップでも生野高校の学生1名に参加いただいた。

委員： 参加者20名の大きな年齢層は。

事務局： 高校生が1名、20代から30代は5名、60歳以上が12名で半数以上。

委員： もし情報があれば運輸局に伺いたい。現在、自家用有償の運行が始まっているが、ドライバーが圧倒的に減ってきていると聞いている。そうすると結局は地域でドライバーをとという話にもなってくると思うが、その地域の中でも担い手が少なくなっているという聞いた記憶がある。今後の話にはなると思うが、もし何かあれば情報提供いただきたい。

事務局： やはり担い手を地域の方に頼るところがある。各地域、ドライバー確保

の取組をされてはいるが、やはりどこも困っている。事業者協力型の自家用有償運送というのものもあるが、なかなか進んでいない。ドライバー確保は課題として考えている。今後、情報収集した上で共有できればと思う。

委員： 導入したら後は維持していくことが大事。今は地域の中で利用啓発の取組がされているが、次のフェーズは地域の皆さんで維持するという話を考えていかないといけないと思う。それを早めに言っておかないといけない。このシステムをずっと継続するのであれば、地域の方々にもそういった意識付けを継続してやっていく必要がある。この会議でも皆さんと意見交換しながら、次のフェーズに向かって考えていくことが重要になってくると思う。

(5) 今後の朝来市公共交通会議の在り方

事務局：【資料5に基づき説明】

委員： 後は道路運送法に基づく会議となる。何度も申し上げているとおり鉄道は該当していないため会議には入れない。資料11ページの今後の在り方について、「現行の構成委員により」と記載されているが、現行と書かれると今の構成委員が入らないといけないようになる。公開もされる資料なので「関係する構成委員」等の記載に訂正してほしい。

事務局： 本日配布の資料はあくまで方針として市の考えを記載しているもので、これをもって継続参加を強制するものではない。市としては引き続き鉄道事業者にも参加いただきたいという思いはあるが、道路運送法に基づく会議となれば参加出来ないとの意向は以前から承知している。資料は訂正出来ないが、会議録にJRさんは次回から委員で無いと記載する。

(6) 2025 春のダイヤ改正

交通事業者：【資料6に基づき説明】

委員： 生野駅から新野駅までの便について増便の予定はないか。地域の中では希望する声がある。

交通事業者： 現状では考えていない。

4 協議事項

(1) 路線バスの休止申請（全但バス運行分）

交通事業者：【資料7に基づき説明】

委員： 一部、福知山の区間が含まれるが、京都府との協議はどうしているのか。

交通事業者： 京都府とは特に協議等はなく、こちらで協議いただいた内容でこと足りていると思っている。対象は終点の金浦のバス停1ヶ所のみ。福知山市内のキロ数は100mもない状況。

委員： おそらく大丈夫だと思うが京都府に情報は共有しておいた方がいい。

委員： バス停の小屋が昔からあるが全但バスが建てたものか、地域で建てたものか地元に聞いてもわからない。バス停を撤去される際にそういったものも何かしらされる予定はあるか。

交通事業者： 地域にあるバス停の上屋のほとんどは地域で建てていただいた物件、あ

るいは公共の物件。弊社の方ではその部分について取壊し等は難しい。停留所に立てている表示板は弊社の物件であり回収する。

交通事業者：【協議結果を踏まえ、資料 7－1 に基づき補足説明】

(2) 和田山・山東地域内コミュニティバスの休止申請

交通事業者：【資料 8 に基づき説明】

(3) 夢但馬周遊バス「たじまわる」の運行計画

交通事業者：【資料 9 に基づき説明】

委 員： 毎年されていると思うが利用はだんだん増えてきているのか、どんな状況か。満員で乗れないようなバスはあるのか。

交通事業者： コロナ以降、徐々に利用実績は戻ってきているコースもある。現在、多くのインバウンドが観光地の方に来られている。鉱石の道号は非常に人気のコースで、必ず満席になるような状況。

5 その他

事務局： 今後の公共交通会議について、次回の第 26 回を令和 7 年 6 月に開催予定。日程は改めて連絡する。

委 員： 令和 6 年度は 1 回目の会議を 6 月に開催して以後 2 ヶ月に一度のペースで開催し、本日は 5 回目の会議。それぞれ本当にお忙しい中、ご出席いただき感謝している。特にデマンド型乗合交通の市内全域導入に向けて大きな改革を行ってきたが、ようやく入口が見えた。先ほど会長からもあったように、いかにシステムを維持していくかということが大事。引き続き、来年度もよろしく願いたい。

朝来市は平成 17 年度に合併後ちょうど今年で 20 年であり、来たる令和 7 年度は 20 周年となる。先日予算の発表をしたが、新年度の一般会計当初予算額は 235 億 1000 万円ということで対前年 8.1% 増と多くの予算を組ませていただいた。この中にはデマンド型乗合交通運行事業として約 1 億 2800 万円を計上。また、交通関連でいうと和田山駅の関係で南北自由通路や以前からお話いただいている駅南ロータリーの改修等といったことも調査費なり工事費を計上している。令和 7 年度以降も交通政策をはじめ、市政を進めてまいりますので、ご理解ご協力をよろしく願いたい。

委 員： 最初にお聞きしたかったが、資料 1 ページの 4 でオペレーターとの意見交換を 1 月 17 日、2 月 7 日にしているようだが、どういう話をしているのか。というのも、高齢になると、今季あたりは特に寒くて元気な方でも足が痛んだりするし、足が悪い方も多い。そういう中で 20 分、30 分乗車していたら、降りる時にいざ立とうとしてもなかなか動くことが出来ず、時間をかけて乗り降りする方もいる。利用の注意事項 10 点目には、一切身体に触れないと書いてあるが、乗り降りの際にもし倒れた場合は助けたりしないといけないと思うので、これは考え直すべき。

事務局： まずオペレーター会議について、正確には予約センターのオペレーターとの会議で、予約センターで電話対応をするオペレーターとの会議。こち

らの会議内容とは別の話になるが、先ほどのご質問は利用者の乗り降りに関するご意見、ご質問としてお聞きした。まず、乗降にかかる時間については、予約システム上で乗り降りする時間をそれぞれ設定出来る。冬場の乗降については、足元が悪いということもあり、夏場より少し長い時間、乗り降りにかかる時間を設定している。乗降介助、乗降時のサポートに関する意見はこれまでもいただいている。今後こういった形でどこまで出来るのかということも含めて今後の検討課題。

委 員： やはり実際に起きることは目の前にあるわけで、高齢になると日に日に足が悪くなっていく。そう考えると、また検討というような考え方は通らないのではないか。やはり起きるものとして取り組んでほしい。以前の会議でも意見としてお願いしたが、今後に考えるべきことなのか。

事 務 局： まず、乗降介助については制度上出来ないということにはなるが、倒れている方や転倒された方を助けるというのは、ここでいう乗降介助とは別の話であり、当然そういった場合は、ドライバーも人として対応するべきと考える。

6 閉 会

副 会 長： 本日は今年度最後の会議となる。先ほど事務局から今後の会議の在り方について説明があったが、来年度も引き続きよろしくをお願いしたい。まだまだ寒暖差のある日が続くが体調管理には気を付けていただき、ご自愛いただきたい。